

給食だより

暑さに負けない体づくりを!

令和8年度 N04 7月号

令和8年6月30日

江東区立第一大島小学校

校長 松下 由美子

栄養士

すでに気温の高い日が続いていますが、夏本番はこれからです。こまめな水分補給で熱中症を予防するとともに、食事をしっかりとって体力をつけ、暑さに負けない体づくりをしましょう。

★夏の行事食いろいろ

7/2 ごろ (夏至から11日目～七夕までの5日間)	7/7	7/13～16 (または8/13～16)	7月下旬ごろ (2026年は7/26)
半夏生 タコ (関西地方) 焼きサバ (福井県)	七夕 そうめん	お盆 精進料理	土用の丑の日 ウナギ「う」のつく食べ物

「作り置き料理」の食中毒にご注意ください

給食のない日の昼ごはんには、チャーハンやパスタ、焼きそばなど、ごはん料理やめん料理が定番というご家庭も多いのではないのでしょうか。このような料理を原因とする「セレウス菌」食中毒が、夏に多く発生しています。セレウス菌は土壌や河川、空気中など自然環境に広く存在しており、穀類や野菜など農産物にも付着しています。加熱しても「芽胞」という熱に強い形になるため、完全に死滅させることはできません。さらに、30℃前後の室温で長時間放置すると菌が増え、下痢や腹痛または嘔吐を引き起こします。



「セレウス菌」食中毒を防ぐポイント

野菜はよく洗う、
食材の中心部まで
しっかり加熱するなど、
衛生的に調理する。



調理後は
室温に放置せず、なる
べく早めに食べきる。



料理は小分けにして冷まし、
冷蔵庫で保管する。



料理を持ち歩く場合は、
保冷剤や保冷バッグを使
い、涼しい所で保管する。





きゅうしょくもくひょう

給食目標

衛生に気をつけよう



夏休みに気をつけたい食生活のポイント

す いぶん（水分）補給 をこまめにしよう	 水か麦茶を少しずつ、こまめに飲みましょう。 汗をたくさんかいたときには塩分も一緒にとるようにします。
て きど（適度）に運動 しよう	 ラジオ体操や水泳、ウォーキングなどで体を動かしましょう。炎天下は避け、早朝や夕方の涼しい時間帯に行うか、室内でできることがおすすめです。
き そく（規則）正しい 生活を心がけよう	 夜ふかしせず、早寝・早起きを心がけ、朝ごはんを毎日欠かさず食べましょう。
な つ（夏）が旬の食べ物 を取り入れよう	 旬の食べ物はおいしくて栄養豊富、価格も安い です。夏が旬の野菜には、体を冷やす効果 があるとされています。
な がら食べはやめよう	 食事の時にテレビやスマホを見ながら食 べるのはやめましょう。
つ め（冷）たい物の とり過ぎに注意しよう	 アイスやジュースなど甘くて冷たい物を取り過 ると、おなかを壊したり、食事がきちんと食べら れなくなったりして、夏バテの原因になります。
や しょく（夜食）や おやつは、食べる時間 ・内容・量を考えよう	 朝・昼・夕の食事以外に何か食べるときは、ダ ラ食べたり飲んだりせず、時間と量を決めま しょう。
す す（進）んで お手伝いをしよう	 食事の準備や片付け、簡単な調理など、お うちの人と相談してできることに挑 戦しま しょう。
み んなで一緒に食べる 機会をつくろう	 家族や仲間と一緒に、会話を楽しみなが ら食事をする機会をつくりましょう。
に ゆう（乳）製品や 小魚などでカルシウム をとろう	 給食のない夏休みは、カルシウムが不足しやす くなります。牛乳を毎日飲むほか、カルシウム を多く含む食品を積極的にとりましょう。



以上のことを心がけ、健康に気をつけて“すてきな夏休みに”してください！